

天売島の海鳥・1959年

藤巻裕蔵

〒072-0005 美瑛市東4条北2丁目6-1

Sea Birds of Teuri Island in 1959

YUZO FUJIMAKI

Higashi 4, Kita 2-6-1, Bibai, Hokkaido, 072-0005 Japan

Abstract. Sea birds were surveyed on Teuri Island situated 30 km from western coast of Hokkaido main island in early June and mid-July, 1959. Sea birds recorded were *Histrionicus histrionicus*, *Phalacrocorax capillatus*, *Larus crassirostris*, *L. schistisagus*, *Uria aalge*, *Cephus carbo*, *Cerorhinca monocerata*. A total of 26 bird species including sea birds were recorded during the survey.

天売島は海鳥の繁殖地としてよく知られており、とくにウミガラス *Uria aalge* の繁殖地として現在わが国では唯一の島である。この島の鳥類については、古くは Udagawa (1953), 村田 (1957), 黒田 (1963) の報告がある。またその後にも綿貫ほか (1986, 1988) の報告や寺沢 (2000) の著書などもある。天売島に限らず、北海道における海鳥の生息数には著しい変化が見られており (綿貫ほか, 1988), 長期にわたるこれらの鳥類の生息数の変化を記録するには各年における調査が欠かせないであろう。

私は、1959年6,7月に天売島で鳥類の観察を行ったが、その結果については未発表であった。天売島では、Udagawa(1953)が1951年6月中旬、黒田 (1963) が1963年5月下旬に調査を行っており、1959年の観察はその間の時期に行われたことになる。この年にはおもに島南西部だけで観察を行ったため、記録としては不十分な点もあるが、1959年代後半の海鳥に関する一資料になると考えられるので、観察結果を報告する。

観察場所と観察時期

天売島は北海道本島の日本海側にあり、西海岸の

羽幌から約30kmに位置する島である。面積はおおよそ5.5km²、周囲は約12kmである。島南端の赤岩の対岸や西側の海岸は大部分崖となっている。また西側には屏風岩、女郎子岩など大小の独立岩が多い。

1959年6月6,7日と7月15,16日におもに島南西部の赤岩、屏風岩、女郎子島が見える崖上部で観察を行った。このほか、6月6日には赤岩から女郎子岩までの間を船で海上からも観察した。6月には観察された種だけを記録し、7月には可能な限り個体数も数えた。

結果と考察

シノリガモ *Histrionicus histrionicus*. 少数個体が島の海岸に近い海上で観察された。

ウミウ *Phalacrocorax capillatus*. 6月に西側海岸の一部の崖で巣にいる数羽が見られ、繁殖しているようであった。このほか、西側の独立岩には数羽がウミネコと一緒におり、このうち屏風岩頂部では7月に5羽が見られた。Udagawa(1953)は屏風岩で繁殖していると述べているが、1959年の6,7月には屏風岩に巣らしきものは見当たらなかった。また村田 (1957) と黒田 (1963) も繁殖

については何も述べていない。個体数について、Udagawa(1953)は多くの個体が海上や岩上にいたと述べているが、1959年の観察では多いと言えるほどの個体数は観察されず、黒田(1963)は100羽と推定しており、この時代にこの種はそれほど多くなかったようである。

ウミネコ *Larus crassirostris*. 島南西部の崖上の斜面や西側崖上の斜面の草地で多くの個体が繁殖しており、このほか西側海岸近くの岩上にもウミウと一緒に見られた。個体数は非常に多く、数えることをしなかった。ウミネコの個体数について、村田(1957)は推定10万羽としているが、Udagawa(1953)と黒田(1963)は5万羽と推定しており、推定個体数に倍近い開きがある。

オオセグロカモメ *Larus schistisagus*. オオセグロカモメは6、7月とも崖上の斜面には見られず、屏風岩やその周辺の岩の上で数羽がウミウやウミネコと一緒にいるのが観察された。7月に屏風岩で見られた7羽のうち、4羽は岩側面の岩棚に2羽ずつであり、つがいのように思われたが、巣らしきものはなく、繁殖している様子は見られなかった。Udagawa(1953)はオオセグロカモメがウミネ



図1. 赤岩上部のウミガラスのコロニー、1959年7月。

Fig. 1. Colonies of Common Murre *Uria aalge* at Akaiwa, Teuri Island in July 1959.

コと島の北西部で一緒に繁殖していると述べているが、巣・卵を観察したかどうかについては言及していない。村田(1957, 1958)は繁殖する海鳥としてウミガラス、ウミスズメ、ウトウ、ウミネコ、ウミウをあげているが、オオセグロカモメについては触れておらず、彼はオオセグロカモメの繁殖を確認していないと思われる。また、黒田(1963)もこの種の繁殖については何も述べていない。1950～1960年代前半には天売島でオオセグロカモメは繁殖していなかったのではないかと考えられる。Udagawa(1953)は個体数について述べていないが、黒田(1963)は推定100羽としており、生息数も少なかったようである。

ウミガラス *Uria aalge*. コロニーはおもに赤岩の上部1/3の岩棚(図1)、屏風岩の頂部(図2左)、女郎子岩(図2右)にあった。個体数は7月に赤岩で約250羽、屏風岩で約200羽であった。なお、女郎子岩のウミガラスについては記録しなかった。Udagawa(1953)はコロニーが赤岩と屏風岩にあると述べているが、この点は1959年の観察結果と一致している。しかし、彼は観察した個体数については述べておらず、島の全個体数について聞込みによると思われる「以前(年代不明)北西海岸で約6,000羽繁殖していた」と述べている。このほかのコロニーとして、黒田(1963)は赤岩対岸の崖などを挙げており、全個体数を約8,000羽と推定している。このうち赤岩に1,500羽、屏風岩1,000羽としており、私の観察結果よりかなり多い。1959年の観

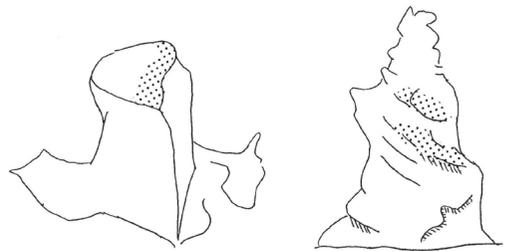


図2. 屏風岩(左)と女郎子岩(右)のウミガラスのコロニー(点部)、1959年7月。

Fig. 2. Colonies (dotted part) of Common Murre *Uria aalge* at Byobuiwa (left) and Jorokoiwa (right), Teuri Island in July 1959.

察では、6月に比べて7月には個体数が少なくなっていた。村田(1957)によると7月中頃から親と幼鳥は海に降り始めるというので、このようなことで7月に個体数が少なくなっていたと考えられる。

ケイマフリ *Cephus carbo*. 赤岩周辺の海上に多くみられ、7月には赤岩周辺とその沖合で約3,000羽が数えられた。この値は黒田(1963)の推定個体数3,000羽と同じである。

ウトウ *Cerorhinca monocerata*. 赤岩対岸の崖上から女郎子岩にかけての島の崖上の斜面草地に多くの巣穴が見られ、このあたりがおもな繁殖場所と思われた。Udagawa(1953)はコロニーが島の北西部にあると述べているが、黒田(1963)がウトウのコロニーとして図示した場所は1959年の観察結果と同様に南西部の海岸沿いである。ウトウは夜行性で、姿が見られたのは餌をくわえて巣に戻る夜になってからであったので、個体数を数えなかった。個体数は黒田(1963)の推定では10万羽である。

このほかに観察された鳥類を参考までに以下に挙げておく。

ツツドリ *Cuculus optatus*, カッコウ *Cuculus canorus*, アマツバメ *Apus pacificus*, アリスイ *Jynx torquilla*, モズ *Lanius bucephalus*, ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*, ヒバリ *Alauda arvensis*, ウグイス *Cettia diphone*, オオヨシキリ *Acrocephalus*

orientalis, コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*, クロツグミ *Turdus cardis*, ノゴマ *Luscinia calliope*, ノビタキ *Saxicola torquatus*, イソヒヨドリ *Monticola solitarius*, スズメ *Passer montanus*, ハクセキレイ *Motacilla alba*, カワラヒワ *Chloris sinica*, ホオアカ *Emberisa fucata*, アオジ *Emberisa spodocephala*.

以上、海鳥を含め26種を記録した。

文献

- 黒田長久, 1963. 天売島海鳥調査(附陸鳥). 山階鳥類研究所報告, 3: 363-383.
- 村田英二, 1957. 天売島の海鳥類とその保護について. 野鳥, 22: 136-140.
- 村田英二, 1958. ウミスズメ天売島に蕃殖す. 鳥, (70): 22-26.
- 寺沢孝毅, 2000. 北海道・島の野鳥. 北海道新聞社, 札幌. 176pp.
- Udagawa, T., 1953. The avifauna of Teuri and Yagishiri Islands, Hokkaido. *Tori*, 13(63): 68-85.
- 綿貫豊・青塚松寿・寺沢孝毅, 1986. 天売島における海鳥の繁殖状況. 鳥, 34: 146-150.
- 綿貫豊・近藤憲久・中川元, 1988. 北海道周辺における海鳥繁殖地の現状. 日本鳥学会誌, 37: 17-32.